



おおきなびょうぶ

Back ground

「創造都市さっぽろ」

札幌は、雪祭りにはじまり、市民ロビーコンサートなどの地域に根ざした幅広い文化活動を展開している都市である。そんな、文化芸術の多様な表現に代表される創造性を生かし、産業振興や地域の活性化を図っている都市でもある。

そんな創造都市さっぽろを具現化するために、「札幌市資料館」を活用する。

札幌市資料館は、札幌の観光名所である大通公園の西のアイストップとなっており、周辺の公園と一体となって象徴的な景観を形成している。

その札幌市資料館と周辺公園に新たな息吹を吹き込むことで、さらに強い創造都市となることを目的とする。

Concept

文化・芸術の分野を中心とした創造活動の場として、多くの人々が交流し、新たな創造やプロジェクトを展開する拠点として、誰でも気軽に使える場所を提案する。

「札幌市資料館」は、都市の中の貴重な財産であることはもちろん、建築的価値はもとより、過去の偉人の精神を体現しているものである。ただ保存するのではなく、人々の日々の活動の中に溶け込む存在としての核となることが望まれているのではないだろうか。

「札幌市資料館」の周辺広場を主として生み出された「おおきなびょうぶ」は、札幌市の歴史を積層させる知恵の結晶として、いつまでもまちづくりの核となり、にぎわいつづけるであろう。



Program

「札幌市資料館」は、大通公園の西のアイストップであり、周辺の文化施設の結節点にも位置づけられている重要な場所である。それぞれの文化施設がネットワークを組むことで、みんなが、札幌らしさを発見し、共有することができる。様々な人々が訪れる、世代を超えた活動の場として「札幌市資料館」と周辺広場を再生する。

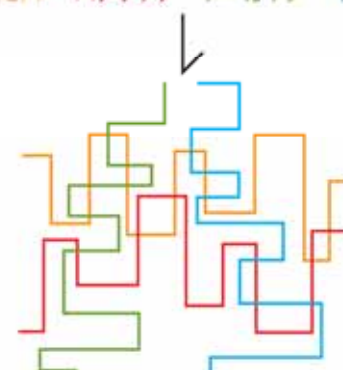
「札幌市資料館」は、すでに多くの歴史を通じた文化活動や美術館の利用など市民活動の中心として位置づけられている。

そこで、「札幌市資料館」がもつポテンシャルを、周辺広場にも集約することで、高機能化し、様々な活動が行える拠点として再設定することを提案する。



Diagram ~周辺広場の空間構成~

4つのびょうぶ（クリエイティビティ・パブリック・アーカイブ・テクノロジー）を織り成すことで、様々な機能を内包する場へと変容する。織り成したびょうぶは、アクセス性はもちろん、アルコーブ状の空間が多数生まれるため、様々な活動が同時多発的に行えるため、人々は、自分の行きたいところを自由に選択することができる。



織り成す



様々な活動が発生



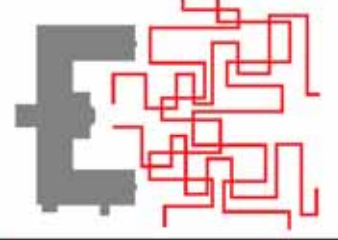
1 構内植栽を避けながら縫うようにしてびょうぶを配置していく。



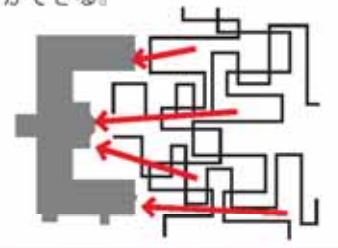
2 スペースとしてアルコーブの連続のように空間を構成することで、異なる活動をつなげ、コラボレーションしやすくなる。



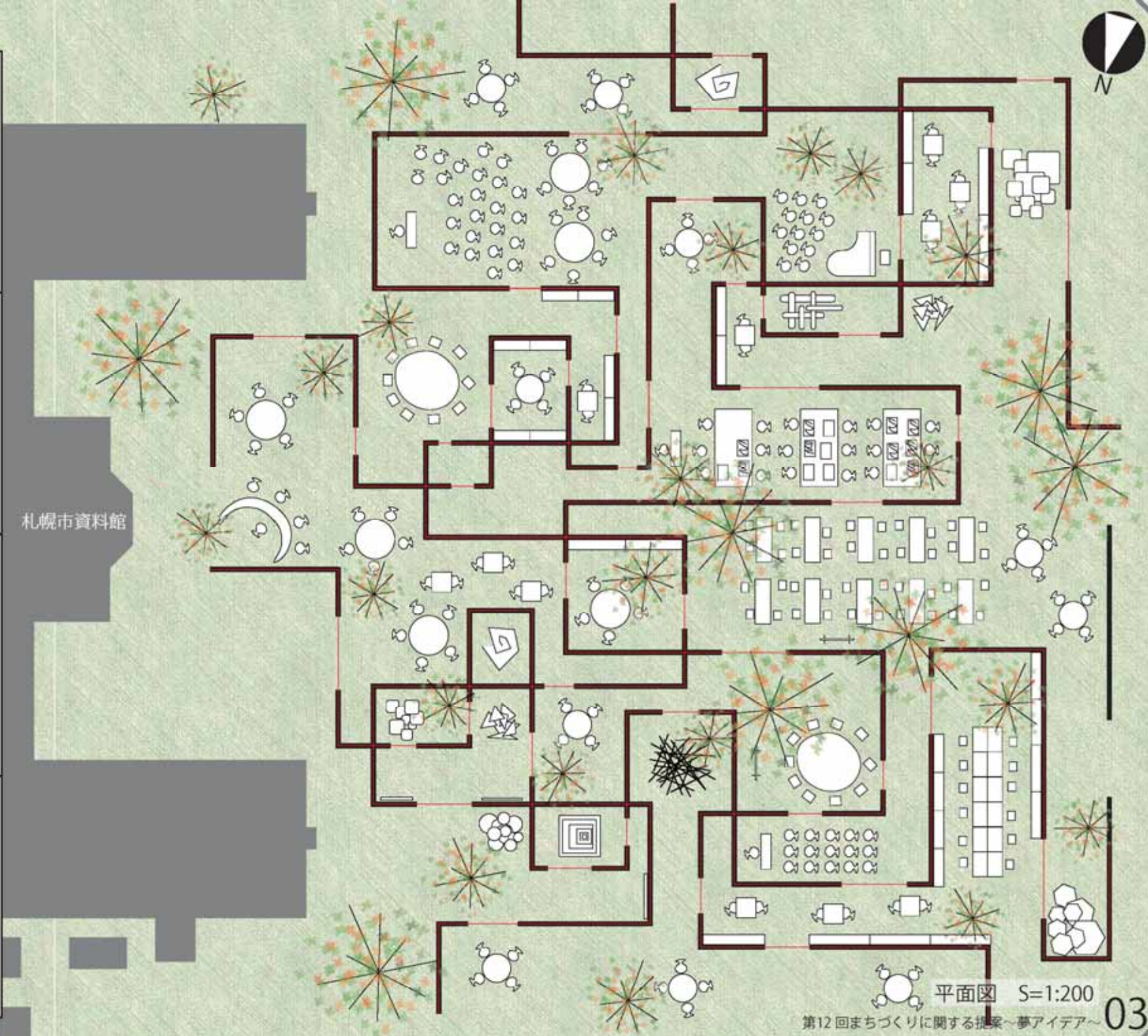
3 内部空間と外部空間を互いに取り込みあうような構成とすることで、内と外の活動をより一体的に利用でき、人々が自由にふるまえる。



4 びょうぶ壁の開口を通して、どこにいても、どんな活動をしていても、いつでも札幌市資料館を感じることができる。



札幌市資料館



平面図 S=1:200



北立面イメージ



東立面イメージ



札幌市資料館

